



山本善則教授

山本喜則教授退職記念号に寄せて

高崎経済大学長 石川 弘 道

山本喜則教授が本年3月をもって定年退職されます。長い間、ご苦勞様でした。

山本先生は、1984年4月に本学経済学部にて専任講師として赴任され、30年の長きに亘り経営学科において情報処理関連科目と演習を担当されてこられました。さらに、大学院開設に伴い、経済・経営研究科の修士課程（現博士前期課程）のM^④、並びに博士後期課程のD^④教授として、講義並びに研究指導にあたられてこられました。

また、広報委員会委員長を1期、附属情報センター所長を3期務められています。特に、附属情報センター所長の6年間は、本学情報センターの基盤形成に尽力され、今日の情報環境が整えられたと言っても過言ではないと思います。

先生とのお別れに、氏名の（やまもとよしのり）を織り込んだ歌をお贈りいたします。

山と谷
もとより二値で
示せるが
伸ばす研究
理論はファジー

先生の研究成果は、多数の論文や著書として公刊されております。その中でも、情報処理やコンピュータの基本となる2値論理を拡張した3値論理を中心とする多値論理に関する研究とファジー理論に関する研究が主要なテーマであると思ひ、上のような歌を作らせていただきました。これらの研究は理論的なものですが、情報化社会の進展に伴う労働環境の変化の1つであるテレワークにも関心を持たれ、日本テレワーク学会の設立から、顧問として活躍されている今日まで、学会の中心的メンバーとして理論面のみならず、実証面からの研究も多数発表されています。山本先生と私は、着任した年度も近く、年齢も近い上に、研究領域も同じく情報です。先生は理学、私は工学というアプローチの違いもありますが、先生の精緻さには敵いません。

先生に関する思い出の1つは、先生の採用が決まった今から約30年前、本

学の新任教員が博士の学位を持っていることが珍しい時代のことです。年配の教員たちが講師控室で、「今度、学位を持った優秀な教員が来るらしいね」と、大きな期待を持って話をしていたことです。その他に、奥様を敬愛し、長期の休暇や週末にはご夫婦で軽井沢の生活を満喫され、『聖地「軽井沢」』という著書をお二人で出版されています。また、犬や猫を愛育されておられたこと、高崎経済学会の“INTRO”にく「還暦過ぎた人でそんな厚い胸板の人いないですよ」と言われて気を良くし（笑）と自らお書きになっているように、本学の柔道部顧問として、学生を相手に柔道の稽古を続けておられたことなどが脳裏をかすめます。

理性的で確固たる信念をお持ちの先生ですから、退職後についても素晴らしいプランを描かれていることと大いに期待しております。

最後になりますが、山本先生におかれましては、ご健康に留意され、ますますご活躍されますようご祈念申し上げます。

山本喜則教授退職記念号に寄せて

経済学部長 唐 澤 達 之

山本喜則先生に初めてお会いしたのは、私が本学に赴任した1997年の4月のことですが、第一印象は現在でも変わることありません。理性的でありながら人間としての暖かさを失わない、そして安定感のある人間としての山本先生です。そうした人柄ゆえ、履歴をみればわかるように、本学に着任してからの30年間にわたり、先生は高崎経済大学経済学部の発展にとって欠かすことのできない存在でした。

先生の退職記念号に挨拶文を寄稿させていただくにあたり、先生ご本人から、生い立ちや、学生時代のこと、研究者としての修業時代のこと、本学に赴任されてからの経済学部のことなど、お伺いする機会がありました。色々なお話をお聞きするうちに気づいたことは、先生の人柄や研究者としてのスタンスが、先生の研究者としての修業時代に形作られたのではないか、ということでした。

先生が大学に入学された1960年代後半は、日本社会の歪みがあちこちで露見しつつあった時期です。大学では学生運動が展開し、先生の母校である東京教育大学も例外ではなく、先生が大学3年生の時は、過激派による大学ロックアウトのため、1年間全く授業を受けることができなかつたとお聞きしました。学部生時代に思うように勉強できなかったことが心残りだったからでしょうか、コンピュータに関心のあった先生は、学部卒業後も1年間東京教育大学の理学部の専攻生として大学に残られました。しかし、生活のためには稼がなければならず、たまたま縁のあった東京都立東大和高等学校で教鞭をとることになったそうです。

先生が他の多くの大学教員と異なるキャリアをたどっているのは、研究職につかれるまでの間に、大学院生としての学歴を持っていない点です。高等学校の教員として激務をこなす傍らで、研究に対する情熱は消えるどころか、独学で専門書を渉猟し、学会誌に掲載された論文をひとつひとつ丹念に読破していったそうです。そしてある時、ある高名な研究者の書いた論文に対する先生の批評が、その論文の著者の目に留まったことで、研究上の交流が始まり、やがては、学界における山本先生の評価も高まり、京都大学より工学博士を授与されるにいたったわけです。

先生の研究者としての修業時代を振り返ってみると、激動の学部生時代にあっても、また、高等学校での激務のなかにあっても、自分の進むべき道を見失わずに、着実に力強く前進してこられたことがわかります。こうした修業時代を経験されたからこそ、「独立不羈」ともいえる先生の研究者としてのスタンスが形作られたのだと思います。

現在の大学を取り巻く環境は、先生の学部生時代とは状況が異なるものの、とても大きな変化の時期にあります。大学の進むべき道、学部の進むべき道をしっかりと見据えていかなければなりません。山本先生の人柄や研究者としてのスタンスは、折に触れて、思い起こさねばならない機会がありそうです。山本喜則先生、大変お世話になりました。

山本喜則教授 履歴および研究業績

学 歴

昭和42年 4月 東京教育大学理学部応用数理学科入学
昭和46年 3月 東京教育大学理学部応用数理学科卒業

資 格

昭和57年11月 京都大学工学博士取得（論工博第1505号）

職 歴

昭和46年 4月 東京教育大学理学部応用数理学科専攻生（昭和47年 3月まで）
昭和47年 4月 東京都立東大和高等学校教諭（昭和58年 3月まで）
昭和58年 4月 岡山理科大学大学院システム科学専攻専任助手（昭和59年 3月まで）
昭和59年 4月 高崎経済大学経済学部専任講師（電算機概論、情報処理、演習担当）（昭和61年 3月まで）
昭和60年 4月 明治大学兼任講師（コンピュータ概論－－現在名称：情報基礎論担当）（現在に至る）
昭和60年 4月 中央大学理工学部兼任講師（統計学担当）（昭和62年 3月まで）
昭和60年 4月 東京都立看護専門学校兼任講師（統計学担当）（昭和61年 3月まで）
昭和61年 4月 高崎経済大学経済学部助教授（電算機概論、情報処理、演習担当）（平成 4年 3月まで）
昭和63年 4月 上武大学経営情報学部兼任講師（プログラム言語担当）（平成 5年 3月まで）
平成 4年 4月 明治大学経営学部兼任講師（経営情報論担当）（平成 7年 3月まで）
平成 4年 4月 高崎経済大学経済学部教授（電算機概論－－現情報基礎、情報処理、演習担当）（現在に至る）
平成13年11月 高崎経済大学大学院経済・経営研究科修士課程設置にあたり大学設置・学校 法人審議会教員組織審査（情報学）においてM[Ⓞ]判定（演習、情報処理研究）
平成14年 4月 高崎経済大学大学院経済・経営研究科修士課程教授（演習、情報処理研究-現ビジネス情報処理研究）（現在に至る）
平成15年 9月 高崎経済大学大学院経済・経営研究科博士課程設置にあたり大学設置・学校法人審議会教員組織審査（経営学）においてD[Ⓞ]判定（特別演習）
平成16年 4月 高崎経済大学大学院経済・経営研究科博士課程教授（ソフトコンピューティング特別演習）（現在に至る）
平成18年 4月 明治大学大学院ガバナンス研究科兼任講師（情報処理）（平成23年 3月まで）

学会及び社会における活動等

昭和51年1月	電子通信学会（現、電子情報通信学会）会員（現在に至る）
昭和57年10月	The 12th IEEE International Symposium on Multiple-valued Logic, Symposium Committee Member（昭和58年5月まで）
昭和59年1月	情報処理学会会員（平成11年3月まで）
昭和61年1月	The Institute of Electrical and Electronics Engineers（IEEE,USA） Computer Society 会員（平成24年3月まで）
平成2年12月	日本ファジィ学会（現、日本知能情報ファジィ学会）会員（現在に至る）
平成3年4月	多値論理研究学会委員（現在に至る）
平成9年10月	The 28th IEEE International Symposium on Multiple-valued Logic, Symposium Committee Member（平成10年5月まで）
平成10年10月	日本テレワーク学会設立準備会委員（平成11年6月まで）
平成11年6月	日本テレワーク学会会員（現在に至る）
平成11年6月	日本テレワーク学会幹事・広報編集委員長（平成13年6月まで）
平成13年6月	日本テレワーク学会副代表幹事（平成15年7月まで）
平成14年10月	The 33th IEEE International Symposium on Multiple-valued Logic, Symposium Committee Member（平成15年5月まで）
平成15年6月	日本テレワーク学会顧問（現在に至る） IEEE Computer Society、日本ファジィ学会、IEEE International Symposium on Multiple-valued Logic reviewer（随時） その他幾つかの学外研究会委員歴任

高崎経済大学での主な役職

- ・ 広報委員会委員長（平成8年～平成10年）
- ・ 附属情報センター所長（第1期）（平成18年～平成20年）
- ・ 附属情報センター所長（第2期）（平成20年～平成22年）
- ・ 附属情報センター所長（第3期）（平成22年～平成23年）

業績一覧表

著書

- | | | |
|----------------------|---|-------------------------|
| ・ 入門微分積分学
（改訂13版） | 共 | 昭和61年2月 弘学出版
平成13年5月 |
| ・ 入門コンピュータプログラミング | 共 | 平成元年4月 弘学出版 |

(改訂版)		平成2年10月	
・例解Fortran90	単	平成7年9月	弘学出版
・情報処理のための例解Cプログラミング (改訂版)	共	平成8年5月	森北出版
		平成11年3月	
・新経営・経済時代の多元的適応	分担執筆	平成10年2月	日本経済評論社
・聖地「軽井沢」 (改訂版)	共	平成12年6月	税務経理協会
		平成13年5月	
・ネットワーク技術を内包する現代の情報処理 (三訂版)	単	平成14年3月	税務経理協会
		平成23年7月	
・IPネットワーク社会と都市型産業	分担執筆	平成15年3月	日本経済評論社

学術論文 (ジャーナル、国際会議論文)

・3値論理関数の代数的方法による簡単化	単	昭和53年3月	電子通信学会論文誌、Vol.J61-D、No.3
・3値論理関数の極値ベクトルと主項について	単	昭和54年4月	電子通信学会論文誌、Vol.J62-D、No.4
・3値論理関数における2単調性の判定法	単	昭和54年4月	電子通信学会論文誌、Vol.J62-D、No.4
・3値しきい値関数に対する必要かつ十分なる条件	共	昭和54年8月	電子通信学会論文誌、Vol.J62-D、No.8
・3値論理における自己双対化関数の特性パラ メータ	共	昭和55年3月	電子通信学会論文誌、Vol.J63-D、No.3
・3値多数決関数	共	昭和55年6月	電子通信学会論文誌、Vol.J63-D、No.6
・2値しきい値関数と同じ論理式で表される多 値多数決関数	共	昭和56年2月	電子通信学会論文誌、Vol.J64-D、No.4
・Sorting of three-valued threshold functions by using self-dualized functions	共	昭和56年5月	IEEE 11th International Symposium on Multiple-valued Logic
・Testing and realization of three-valued majority functions	共	昭和56年5月	IEEE 11th International Symposium on Multiple-valued Logic
・A method of determining the functional form of three-valued majority functions	共	昭和56年9月	電子通信学会論文誌、Vol.E-64、No.9
・Analysis of three-valued logic and synthesis of majority functions	単	昭和57年11月	京都大学工学博士論文、論工博第1505号
・Generation of ternary majority functions of four or less variables	共	昭和58年5月	IEEE 13th International Symposium on Multiple-valued Logic
・JK flip-flops for many-valued logic	共	昭和58年11月	電子通信学会論文誌、Vol.E-66、No.11
・Error correctable many-valued majority elements	共	昭和59年1月	電子通信学会論文誌、Vol.E-67、No.1
・3値組合せ論理回路における故障検出テスト の生成	共	昭和59年3月	電子通信学会論文誌、Vol.J67-D、No.3

- ・ Synchronus mod N counters of logical type based on many-valued logic 共 昭和59年 5月 電子通信学会論文誌、Vol.E-67、No. 5
- ・ P値組合せ論理回路における表を用いての故障検出ベクトルの生成 共 昭和60年12月 電子通信学会論文誌、Vol.J68-D、No.12
- ・ Relationship between regular ternary logic functions and ternary majority functions 共 昭和61年 5月 IEEE 16th International Symposium on Multiple-valued Logic
- ・ P-ternary logic functions--Ternary logic functions capable of correcting input failures 共 昭和62年 5月 IEEE 17th International Symposium on Multiple-valued Logic
- ・ Ambiguity decision tables and P-ternary logic functions 共 昭和63年 5月 IEEE 18th International Symposium on Multiple-valued Logic
- ・ Meaningful special classes of ternary logic functions--Regular ternary logic functions and majority functions 共 昭和63年 7月 IEEE Transaction on Computers、Vol.37、No. 7
- ・ Relationship between P-valued majority functions and P-valued threshold functions 共 昭和63年11月 IEEE Transaction on Computers、Vol.37、No.11
- ・ A P-ternary threshold element network --An application of ternary logic to a neural system treating ambiguity 共 平成 1年 5月 IEEE 19th International Symposium on Multiple-valued Logic
- ・ ファジー多数決関数 共 平成 2年 8月 電子情報通信学会論文誌、Vol.J73-D-I、No. 8
- ・ 線形識別の一手法の改良と7変数しきい値関数代表元生成への応用 共 平成 2年10月 電子情報通信学会論文誌、Vol.J73-D-II、No.10
- ・ P-functions--Ternary logic functions capable of correcting input failures and suitable for treating ambiguities 共 平成 4年 1月 IEEE Transaction on Computers、Vol.41、No. 1
- ・ ファジィしきい値関数とその応用 単 平成 4年 4月 日本ファジィ学会誌、Vol. 4、No. 2
- ・ A meaningful infinite-valued switching function 単 平成 4年 5月 IEEE 22th International Symposium on Multiple-valued Logic
- ・ 近似推論へ応用可能な無限多値多重しきい値関数 単 平成 6年 2月 日本ファジィ学会誌、Vol.6、No. 1 (英文訳を同年Allerton Press、Inc.、U.S.Aが出版)
- ・ 無限値しきい値関数の数学的性質と多段結合 単 平成 9年 8月 日本ファジィ学会誌、Vol. 9、No. 4 (英文訳を同年Allerton Press、Inc.、U.S.Aが出版)
- ・ A synthesis method of the approximate reasoning engine 単 平成10年 5月 IEEE 28th International Symposium on Multiple-valued Logic

- ・ On the relationship between telework and strategies for development in local areas in Japan 単 平成11年 9月 The Fourth International Telework Workshop
 - ・ G Aを用いた無限多値近似推論エンジン 単 平成11年10月 日本ファジィ学会誌、Vol.11、No. 5
 - ・ Functionally complete Kleenean functions 単 平成13年 8月 The 2nd Korea-Japan Joint Symposium on Multiple-valued Logic
 - ・ 任意の 3 値論理関数を合成可能な拡張正則 3 値論理関数と多数決関数 単 平成13年12月 電子情報通信学会論文誌、Vol.J-84-D-I、No.12
- ("Systems & Computers in Japan" John Wiley & Sons、In c..Vol.35、No. 1、pp.79-90、2004に英訳転載された)
- ・ An extension of ternary majority function and its application to evolvable hardware 単 平成15年 5月 IEEE 33th International Symposium on Multiple-valued Logic
 - ・ 多値多数決関数のさらなる拡張 単 平成16年 1月 電子情報通信学会論文誌、Vol.J87-D-I、No. 1
 - ・ 多値論理に基づく近似推論システムについての一考察 単 平成17年12月 電子情報通信学会論文誌、Vol.J88-D-I、No.12
 - ・ Power indexes in voting systems and multiple-valued logic 単 平成19年 5月 IEEE 37th International Symposium on Multiple-valued Logic
 - ・ 拡張バンザフ指数――論理関数の視点から 単 平成20年 5月 電子情報通信学会論文誌、Vol.J91-D、No. 5
 - ・ Banzhaf Index and Boolean Difference 単 平成24年 5月 IEEE 42th International Symposium on Multiple-valued Logic

(本学紀要)

- ・ 3 値多数決関数の整数分離系 単 昭和59年 9月 高崎経済大学論集、Vol.27、No. 2
- ・ あいまいさを扱う決定表とその問題点 単 平成 2 年12月 高崎経済大学論集、第33巻、 3号
- ・ ファジィ診断システムの構築とその問題点 単 平成 6 年 9月 高崎経済大学論集、第37巻、 2号
- ・ 情報化に伴うワークスタイルの変化 単 平成 7 年 1月 NOVITAS (高崎経済大学) 第 4号
- ・ 企業へのアンケート調査にみる情報機器リサイクルの現状 単 平成 9 年 1月 NOVITAS (高崎経済大学) 第 6号
- ・ 情報機器のリサイクル―その現状と展望― 単 平成 9 年12月 高崎経済大学産業研究所紀要、第33巻、第 1・2 合併号
- ・ テレワークに対する全国自治体の意識と実態 単 平成10年 9月 高崎経済大学附属産業研究所紀要、第 34巻第 1号
- ・ 情報機器のリサイクル―リース企業を中心として― 単 平成11年 3月 高崎経済大学附属産業研究所紀要、第 34巻、第 2号
- ・ テレワークと先端技術依存ビジネス 単 平成11年12月 高崎経済大学附属産業研究所紀要、第

			35巻第1号
・SOHOはいまどこにあるか	単	平成12年11月	高崎経済大学附属産業研究所紀要、第36巻第1号
・テレワークと地域 I X	共	平成13年9月	高崎経済大学附属産業研究所紀要、第37巻第1号
・投票システムと論理関数の関係に関する一考察	単	平成18年3月	高崎経済大学論集第48巻第4号
その他（研究会、国内大会発表の一部、他）			
・線形識別の一手法	共	平成2年9月	電子情報通信学会パターン認識・理解研究会報告、PRU90-53
・ファジィしきい値関数の拡張と近似推論への応用	単	平成5年1月	電子情報通信学会多値論理とその応用研究会報告、多値技報、Vol.mvl-93、No.1
・個が担う「産業」－ITがもたらす新ビジネスの行方－	単	平成12年8月	東和銀行地域経済研究所「TOWA経済レポート」No.140
・なんでだろう－格闘技ブームと景気一考－	単	平成16年2月	東和銀行地域経済研究所「TOWA経済レポート」No.183
・成功するリゾートテレワークの条件を探る	単	平成16年7月	日本テレワーク学会第6回研究発表大会
・テレワークにおけるVPN技術の将来性について	共	平成17年7月	日本テレワーク学会第7回研究発表大会
・ヒルズ族って？	単	平成18年1月	東和銀行地域経済研究所「TOWA経済レポート」No.205
・現在ジムナジウム事情	単	平成20年1月	東和銀行地域経済研究所「TOWA経済レポート」No.229

高崎経済大学論集

第56巻 第4号

平成26年3月

山本喜則教授退職記念号

目 次

山本喜則教授退職記念号に寄せて	石川 弘 道 (i)
	唐澤 達 之 (iii)
山本喜則教授 履歴および研究業績	(v)

〔論 文〕

パワー指数と論理関数 —— シャープレイ・シュールビック指数の拡張 ——	山 本 喜 則 (1)
日本における所得格差の拡大と社会的な影響 - OECD加盟国との比較において	石 井 久 子 (17)
高頻度データを使用した人民元の二重相場	佐 藤 綾 野 (31)
委任者死亡後の委任契約の効力とその法益の保護	谷 口 聡 (45)
「ノマド」という罪：EUシティズンシップのポリシング	土 谷 岳 史 (59)
旅客機の緊急着水時における避難行動に関する研究	福 司 光 成 (75)

〔研究ノート〕

近年の日本国内の蚕糸業の動向と製糸工場の現状	大 島 登志彦 (89) 原 田 喬
漢字同形語からみた日中法律用語の翻訳上の諸問題	廖 海 濤 (99)

〔講演抄録〕

グローバル時代の企業経営を考える	江 夏 健 一 (113)
TPPと規制緩和の正体	鈴 木 宣 弘 (119)

〔学会記事〕

学会主要記事	(123)
--------------	-------

THE ECONOMIC JOURNAL
OF
TAKASAKI CITY UNIVERSITY OF ECONOMICS

Vol.56 No.4 March 2014

In Honor of Professor Yamamoto Yoshinori

Contents

Forewords..... *Ishikawa Hiromichi* (i)
Karasawa Tatsuyuki (iii)
The Life and Works of Professor Yamamoto yoshinori (v)

Articles

Power Indices and Logic Functions *Yamamoto Yoshinori* (1)
Income Inequality in Japan with a Comparison with OECD Countries..... *ISHII Hisako* (17)
Dual Exchange Rate of the Chinese Yuan *SATO Ayano* (31)
The Effect of Mandate Contract after the Death of Mandator
and its Interest Protection.....*Taniguchi Satoshi* (45)
Guilty by nomadic lifestyle: EU citizenship and policing *Tsuchiya Takeshi* (59)
The study on behavior of evacuation
from passenger planes landing on the water urgently *Fukushi Kohsei* (75)

Research Notes

The Report of the Sericulture and the Silk-Industry with our recent
Observation in Japan now *Oshima Toshihiko* (89)
Harada Takashi
Difficulties in Chinese-Japanese Translation of Legal Terms
from the Perspective of the Homographs in Japanese and Chinese *Liao Haitao* (99)

Lecture Abstracts

Globalization of Business Imagined *Enatsu kenichi* (113)
Vicious Features of TPP and Deregulation..... *Suzuki Nobuhiro* (119)

Editors' Report

Editors' Report (123)

本号執筆者（掲載順）

山本喜則	本学経済学部 教授
石井久子	本学経済学部 教授
佐藤綾野	本学経済学部 准教授
谷口 聡	本学経済学部 准教授
土谷岳史	本学経済学部 准教授
福司光成	本学大学院経済・経営研究科博士後期課程
大島登志彦	本学経済学部 教授
原田 喬	下仁田町文化財調査委員
廖 海 濤	本学経済学部 非常勤講師
江夏健一	早稲田大学名誉教授・ハリウッド大学院大学 学長
鈴木宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

本論文集に掲載の論文、研究ノート（書評、講演抄録、学会記事などをのぞく）については、第42巻第1号から当学会において審査（レフリー）を行っております。
本論文集に掲載されている著作物の著作権は、本学会に帰属します。

